立腰を意識し、腰骨を立てて座ります。
静かに目を閉じて〝はじまりの準備〟をします。

Discipline

大切にしていること

幼児期の「しつけ」は成長の土台

朝日塾幼稚園は、「しつけ」を教育の柱の一つにしています。人が社会の中でさまざまな人々と関わって生活していくには、習慣やルール、知識や道徳性を身につけ、人としての品性を備えることが大切です。「しつけ」と聞くと、子どもを厳しく叱りつけるようなネガティブなイメージを抱く人もいますが、決してそうではありません。手洗いやうがい、あいさつをしたり、姿勢を正したりすることも、子どもに押しつけるのではなく、日々の園生活の中で、その意味を納得できるように伝えていきます。排泄の自立も、「一人でトイレができたね!」と繰り返し褒めることが子どもの自信と喜びにつながり、次も一人でやってみようという意欲を引き出します。

社会性を育む基本的生活習慣

将来、大人として社会に出たとき、重要視される力の一つに社会性があります。人間関係を円滑に保ちながら社会生活を送るうえで、欠かせない能力です。
社会性に乏しく、なかなか友達がつくれない、人と打ち解けられない、人と関わるのが苦手で悩んでいるという大人が多いように、人と人との関わり、人間関係の形成には、子どものころ、特に幼児期の生活習慣が大きな影響を与えます。
その社会性の基となる力が基本的生活習慣であり、身につけるには、根気よく声をかけ続ける必要があります。担任をはじめとする先生たちが統一された理解のもと、すべてのクラスで、繰り返し、ねばり強く取り組んでいます。

良い生活習慣と生活の基礎を身につける「しつけ」をとても大切にしています。

あいさつ、姿勢、けじめ

あいさつは、コミュニケーションのはじまりです。立ち止まって、相手の目を見て、しっかりとあいさつができれば、誰とでも関わることができ、相手の気持ちを受け入れる心が芽生えます。素直な心が育つ「はい」の返事もできるようにします。集中力を高める「正しい姿勢」を身につけさせ、遊ぶときは遊ぶ、話を聞くときは聞くというように、自分で考え、けじめのある行動ができるように指導します。

集中力・持続力を高める「立腰（りつよう）」

いすの背にもたれず座り、足の裏を床にぴたりとつけ、おしりを後ろに引いて、腰骨を前に出し、下腹に心持ち力を入れて、あごを引き、肩の力を抜く。そして、黙って目を閉じる。本園が日々実践する「しつけ」の一つに立腰があります。子どもに立腰を意識させることで、単に美しい姿勢が身につくだけでなく、やる気が起こる、集中力や持続力が増す、行動が俊敏になるなど、さまざまな相乗効果が生まれています。

元気なあいさつは
気持ちがいいね！